

## 第13回 恵那南地区中学校再編委員会 会議録

- ・日時 平成28年3月14日(月) 19:30～
- ・会場 岩村振興事務所 大会議室
- ・出席者 小中学校代表 春日井尚武、小坂忠昭  
こども園代表 千藤まゆみ  
地域自治区代表 山本純、西尾公男、黄地尚幸、原田知典、阿部道長、堀真人  
安藤仁志、安藤良一、川上貞夫、大島将官  
中学校PTA代表 近藤祐司、伊藤昌治、松下雅昭、成瀬浩司、横光基  
小学校PTA代表 小川道義、加藤信之、渡邊大剛、川上渡、高井良三  
こども園保護者会代表 小木曾耕司、成瀬一、伊藤寛隆、堀雄二  
恵那南地区中学校あり方検討委員会委員 鈴木峰夫、中垣貞好  
振興事務所長 西尾茂文、後藤光男、勝川甲子、三宅勝彦、熊谷浩  
教育委員会 大畑雅幸  
事務局 門野幸次朗、岡田庄二、土屋育代、西尾克子、梅村浩三、石田祐一  
山田耕司、度會将仁
- ・欠席者  
地域自治区会長会議代表 樹神和昭  
こども園保護者会代表 森井清、川上翔  
総合計画審議会代表 西村貢  
行財政改革審議会代表 柘植麻美  
事務局 安藤一博

1. 開会挨拶 委員長、教育長

2. 議事

委員長 : それでは、議事に入ります。

はじめに、もう少し内容を考えてほしいと串原地区からありましたので、ご意見  
いただきたいと思います。

委員 : (串原代表) 再度会議を開きまして、PTAからの要望を報告してもらいますが、内  
容は通学時間について、「1時間以内を目指す」を「1時間以内とする」に変更で  
きるのかできないかお答えいただきたい。どちらの回答にしても串原としては受

け入れさせてもらいます。この点をお願いします。

委員：(串原 PTA) 27 年度 28 年度の本部役員に答申内容を説明し、「1 時間以内を目指す」ではなくて「1 時間以内とする」にさせていただきたいという意見が多くありました。串原、上矢作は山岡から遠い場所になる。1 時間以上となることに不安があるという意見からです。各地区のこれから中学校に通う小学校の会長、こども園の会長に「1 時間以内とする」とはっきり書くことについてお伺いしたい。

委員長：只今の話について、各こども園の会長、小学校の会長で修正するのかもしれないのかご意見をいただきたい。

委員：(岩村) 1 時間で通学できるなら問題ない。ただ、現実的にどこまで出来るかはいまではわからない。1 時間で行ければよい。

委員：(山岡) 最も通学時間の長い子どものことを第一に考えることは当然必要です。ただ、今後どのようなことになるのかはわかりませんので、「1 時間以内とする」と言い切ってしまうのは厳しいと思います。

委員：(明智) 「1 時間以内とする」というのは理想です。最も通学時間の長い子どものことを第一に考えることは重要であると思います。ただ、現実生徒がどこに住んでいるかは毎年変わってくる。本当に物理的に可能なのかということもある。文言としては「1 時間以内を目指す」が良いと思います。

委員：(上矢作) 「1 時間以内とする」としていただければありがたいです。もし 1 時間を越えた場合は、必ず話し合いの場を設けるという言葉をつけてほしい。

事務局：前回再編委員会の中で「1 時間以内を目指し」に変更してはどうかと提案させていただいた。目指すというのは行動の目標ということです。この通学 1 時間は皆さんと十分考えていかなければならないことであり、「1 時間以内とする」という表現も良いかと思いますが、言い切ってしまうと時間をクリアすれば良いのかとも取れる。「目指し」ですと皆さんと議論しながら、通学方法も踏まえて考えるという表現にもなりますので、「目指し」が良いのではないかという提案です。

委員長：串原から 1 時間以内と言い切ってほしいというご意見であったが、これから状況が変わってきます。1 時間以内というのはみんなの願いです。教育委員会でもその点は十分承知されています。ここは、言い切るのではなく、「目指し」ということで決定させていただきます。

事務局：その他の修正点を説明する。

委員：上矢作から 1 時間を越えた場合は話し合いの場を設けるというのはどこに入るの

か。

- 事務局 : 通学時間は検討していくことですので、この内容でその点をご理解いただきたい。
- 委員長 : 答申の学校統合の場所の中に新築という言葉を入れていますが、これは私たちの願いです。これからは、中学校を恵那南地区に造るとみんなで考えていきたい。すばらしい学校を造りたいし、教育委員会に任せるだけでなく、住民が自ら教育していくつもりで、もっともっと参画をしていく必要があると思う。答申を今後の大きなアウトラインとして考えていただきたい。
- 委員 : 附帯事項で、一番通学に対する負担を少なくするという意味から、毎年何処でバスに乗るのか検討していくことを今までの再編委員会で大事にしてきた。毎年通学に対する負担を軽減するような論議の場を、地区で毎年持つということを入れてほしい。このことは負担を軽減しているということを大事にしているという意味もある。
- 委員長 : この点はいかがでしょうか。
- 委員 : この附帯事項の中で、言葉として同じようなニュアンスで書いてある言葉もありますし、この附帯事項が次のステップとしてどのような学校を造っていこうという基にもなります。細かいことを言えば色々ありますが、この答申で次の方が問題点を見つけて議論されていけばよいと考えているし、次にはもっと深くしていければ良いのでこの附帯事項で良いと思います。
- 委員 : 効率的な運用ということが書かれています。この運用は毎年動きながら、駄目なところは直していくという意味もありますので、これで良いと思います。
- 委員 : 再編委員会の目的は場所と時期です。それに附帯事項が細かく書いてあります。地域から要望があればそこで決めていただくことで良いと思う。
- 委員長 : 先程異議なしというご意見をいただいていますので、これを成案としてよろしいか。
- 委員 : 異議なし
- 委員長 : 皆さん本当にこの1年間、中学校の統合について考えてこられたと思います。成案をいただきましたので、教育委員会へ答申を届けたいと思います。
- 教育長 : 皆様方、ここまで意見を取りまとめていただきましてありがとうございます。この後、教育委員会へ答申を行っていただき、教育委員会で協議をします。今までの委員会の内容は、教育委員会でも報告をしております。この答申を尊重し進めていきたいと考えております。

副委員長：5月から13回の委員会で皆様もいろいろな思いがあったと思いますが、答申をまとめていただきまして本当にありがとうございました。これからは、教育委員会としても大変と思いますが、実現に向けてお願いしたい。委員の方も今後色々なご支援をいただきたいと思います。これにて恵那南地区中学校再編委員会を閉じます。

20：12 終了